

リレートーク【1】

中国職業能力開発大学校 大久保 欣哉

工業高校のものづくり教育にかかわって

千秋先生より受け継ぎました中国職業能力開発大学校の大久保です。千秋先生とは、実践教育訓練研究協会でも知り合いました。関東で仕事をしていた頃は、年に数回顔をあわせていたのですが、鈴鹿峠より西に来てからは会うことが少なくなりました。またお会いできるといいですね。さて本題ですが、私は、大学校の指導員という仕事に就きながら、高校で行われている実技・実習で行われている具体的な内容をよく知らないまま、学生に対して授業を行ってきました。実際、工業高校や普通科高校の見学などは、子どもが通っていることでもなければ見学に行くこともないことから、普通に仕事をしているうでは、知ることはないなと考えていました。ところが、昨年秋に岡山県高等学校研究協会から「高校生ものづくりコンテスト」に向けて工業高校の先生方の知識と技能の向上のための機会を作ってほしいと依頼を受けました。実は、岡山県が岡山産業人材育成プランとそれにかかわるコンソーシアムを作ったところで、何かアクションを必要とされているときだったので、最初の事業としてどうだという話だったようです。高校の先生と知り合う機会はめったにないので、話を受け入れて研修をさせていただくことになりました。内容は1日でmicrochip社製のマイコンを用いた回路のハードウェア製作とソフトウェアの実習で、通常では2、3日かかる内容でありましたが、学校に帰ってから補間と復習する条件で内容を濃縮して行いました。希望者は20人と多いとは思いましたが、さすがは工業高校の先生、少し平均年齢は高かったのですが、昼ごはんもそこそこに、しっかり「はまって」いただきました(写真1)。無事この研修は修了したのですが、今年になってこの研修が縁で「高校



写真1 研修の様子

生ものづくりコンテスト」の岡山県大会(写真2)の問題作成委員と審査委員をお願いしたいという話がありました。このコンテストの名前は聞いたことがあるの



写真2 県大会の様子

ですが、引き受けるに当たり改めて調べてみました。(社)全国工業高等学校長協会が主催で、今回が第8回目だそうです。県大会の上位2名が地区大会へ、地区大会の優勝者が全国大会と進んでいくようです。競技種目は、「電子回路組立」、「電気工事」などの7部門です。また、中央職業能力開発協会主催の「若年者ものづくり競技会」は、このコンテストの地区大会準優勝の生徒が参加することが多いようです。各県大会の参加要綱を見ると、能力開発施設の職員が多くかかわっているという印象を持ちました。この大会も(独)雇用・能力開発機構岡山センターで行われ、センター職員の森本先生と審査をしました。実際に研修や問題作成や審査をする過程で、工業高校の先生方や県の教育委員会の方ともたくさん話ができて、普段の実習の内容や進学、就職状況などの通常の学校訪問では聞けないことを聞くことができました。特に大学校の指導員の方は、利点が多いと思われるので機会があれば協力されることをお勧めします。

さて、次にお願いしたのは、能力開発総合大学校東京校の前田晃穂先生です。前田先生には、私が最初に赴任した学校(小山職業能力開発短期大学校)で大変お世話になりました。当時独身であった私のペースで、先生を夜中まで引っ張りまわし、ご家族にひんしゅくを買いながらいろいろご指導をいただきました。現在は金型関係を軸に教育訓練を展開されています。それでは前田先生よろしくお願いたします。